

I 概要

桜井市議会産業建設委員会所属議員行政視察

- 1 期 日 平成 28 年 10 月 20 日（木）～ 21 日（金）
- 2 派遣委員 (委員 長) 工藤 行義 (副委員 長) 大園 光昭
(委 員) 岡田 光司 (委 員) 藤井 孝博
(委 員) 西 忠吉 (委 員) 阪口 豊
(委 員) 井戸 良美 (委 員) 金山 成樹
以上 8 名
- 3 視 察 地
【島根県出雲市】
人口 174,957 人（平成 28 年 3 月 31 日現在）
面積 624.36k m²
- 4 視察目的
【島根県出雲市】
本市は、平成 26 年 12 月に、奈良県と 5 地区の「まちづくりに関する包括協定」を結び、本年は、大みわ神社参道周辺のまちづくり基本計画の策定など、大きく動き出すことになりました。
そこで、友好都市でもあり、先に成功をおさめられている出雲市の出雲大社門前町神門通り活性化の取り組みを調査する。
- 5 視察事項
1 日目：島根県出雲市
○ 出雲大社門前町神門通り活性化の取り組みについて
2 日目：出雲大社、出雲大社神門通り
○ 現地視察

本委員会の所属議員は、議会の議決を得て、上記のとおり派遣を許可され、視察事項のとおり研修を行いました。

II 研修内容のまとめ

〔島根県出雲市の概要〕

出雲市は、「出雲市」、「平田市」、「佐田町」、「多伎町」、「湖陵町」、「大社町」の2市4町の新設合併により、平成17年3月22日誕生しました。

また、平成23年10月1日には、「斐川町」を編入合併しました。

島根県の東部に位置し、北部は国引き神話で知られる島根半島、中央部は出雲平野、南部は中国山地で構成されています。出雲平野は、中国山地に源を発する斐伊川と神戸川の二大河川により形成された沖積平野で、斐伊川は平野の中央部を東進して宍道湖に注ぎ、神戸川は西進して日本海に注いでいます。日本海に面する島根半島の北及び西岸は、リアス式海岸が展開しており、海、山、平野、川、湖と多彩な地勢を有しています。

また、斐伊川と神戸川に育まれた豊かな出雲平野は農業生産力の高い地域であり、日本海沿いには多くの漁港も有しています。工業は山陰有数の拠点であり、商業集積も進み、各産業が調和した地域です。同時に出雲縁結び空港、河下港、山陰自動車道と環日本海交流の機能も担える交通拠点でもあります。合併後の市においては、両市町の優れた特性、資源を活かした広い視点に立ったまちづくり、産業の復興を基軸にあらゆる分野において地域全体のクオリティをあげております。近年では「IZUMO」のブランド化に取り組み、全国に誇れる都市、子どもたちや若者をはじめ、すべての市民が夢と希望を持てる「5つ星の出雲市」の実現をめざして、日々努力しております。

【研修内容】

1. 出雲大社門前町神門通り活性化の取り組みについて

1) 出雲大社周辺のまちづくり

出雲市では平成17年3月の合併時に作成された「21世紀出雲グランドデザイン」また、平成24年に作成された新たな出雲の国づくり計画**出雲未来図**（[詳細は次ページ参照](#)）において、出雲大社周辺を歴史文化のシンボル空間と位置づけ、門前町の再生に向け、面的な整備、商店街の活性化を支援し、長時間滞在してもらえるよう取り組み、「**交流人口1,000万人の達成**」をめざし、整備を進めてきた。



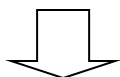
2) 神門通り地区まちなみづくりの歩み

平成23年3月、「神門通り地区まちづくり協定が発足しました。この協定は、住民自らが発案・策定し、住民自身が、魅力あるまちなみ景観を形成するためのルールです。まちなみ景観といっても、道路整備などのハード事業だけでなされるものではありません。この協定では、「出雲大社への参詣道として風格ある景観」と「門前町にふさわしい賑わいのある街並み」を創り出すことを目的として、主に建物の修景基準（建物の形、デザイン、色を周囲と調和させるための基準）と屋外広告物の提出基準などを定めています。

(神門通りの成立ち)

■明治45年(1912年)

国鉄大社駅の開業



■大正2年(1913年)

荒地に新たな参道が完成(神門通り)



■大正4年(1915年)

大鳥居と松280本が寄贈される



■昭和5年(1930年)

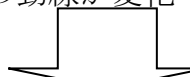
一畑電鉄駅の開業

(神門通りの歴史)

■モータリゼーション(1960年代以降)、
や、出雲大社外苑駐車場の整備、JR大社
線の廃止



■出雲大社参拝の動線が変化



■神門通りの衰退

3) 島根県・出雲市の動き、出来事(H22)

平成21年10月神門通り整備に関するアンケート実施。

☆神門通りの道づくり(島根県事業)

- ・失われたにぎわい
- ・出雲大社の参道らしさ



まちづくりの目標＝「にぎわいづくり」

☆出雲未来図☆

この計画は、今後10年間の新たな出雲市の総合復興計画として、本市がめざすべき将来像と、その実現を図る6つの基本方策をまとめるとともに、重点的に取り組むべき4つ

の「戦略プロジェクト」をまとめたものです。

「市民が主役のまちづくり」「地域特性が光るまちづくり」「自立するまちづくり」の3つの基本理念に基づき、出雲市は、市民の皆さまとともにこの将来像実現に取り組みます。

基本理念

- ① 市民が主役のまちづくり
- ② 地域特殊が光るまちづくり
- ③ 自立するまちづくり

目標年度

平成24年度（2012）を初年度とし、平成33年度（2021）を目標年度とする
今後10年間。

構成

平成24年度（2012）

平成28年度（2016）

平成33年度（2021）

基本構想 新たな出雲の国づくり計画「出雲未来図」		
基本計画（前期）		基本計画（後期）
実施計画（中期財政計画）	実施計画（中期財政計画）	実施計画（中期財政計画）
毎年度予算		

目標人口 17万人台の維持

本市の平成33年（2021）の人口は、平成22年（2010）より約8千人減少し、約16万3千人となる推計がありますが、この計画で掲げた市の将来像を実現することにより、17万人台を維持することを目標にします。

目標交流人口 交流人口1,000万人の達成

神々のふるさと 出雲の国の神門通り 祈りの道、そして出会いの道

出雲大社の参詣道として

ワークショップの議論より

- 出雲大社らしい風格を残したい
- 出雲大社の参詣道として「神聖な領域」「落ち着いた雰囲気」にしたい
- 神門通りが誇る松並木を活かしたい
- 統一性のあるデザインにしたい
- 人々の出会い・交流があるにぎやかな場にしたい

これまで100年愛されてきた神門通り
これから100年も愛される道づくり



4) 島根県・出雲市の動き、出来事 (H23)

☆デザインワークショップ開始



(平成 21 年 7 月～平成 23 年

12 月) 延べ 400 人が参加

* 市民、地元中学生、関係
組織主体、アドバイザー

進め方としては、住民意見を取り入れた計画づくりの徹底。

(ワークショップ、アンケート、ヒヤリング、広報等)

5) 交通

☆シェアド・スペース (歩車共存道路)



・ 歩行者と自動車を分離する構造
を排除。

・ 歩行者と自動車双方の安全意
識を高める。

・ 採用にあたっては社会実験
を実施。

・ 観光バスの北進一方通行化。

6) 神門通りおもてなしステーションの整備

・開設日 平成24年10月3日

・施設概要

(所在地) 出雲市大社町杵築南780-4

(構造) 木造2階建(1階部分51.2㎡)

・運営概要

(開設時間) 9:00から17:00まで

*入込客の状況により時間延長

(開設日) 年中無休

*スタッフ: 2~3名/日



・神門通り観光案内所の来館者数

平成23年 12,400人

平成24年 13,249人

平成25年 117,227人

平成26年 84,316人

7) 現在のまち歩きの取り組み

・まち歩きキャンペーンで、一の鳥居からスタートする出雲大社参拝のルートを浸透させる成果があり、神門通りへの誘導につながった。

・平成25年度は、平成の大遷宮による大勢の参拝客を見込み、神門通りを歩いて参拝するしかけとして、「まち歩きマップ」を作成し設置。

(出雲エリアの観光案内所、JR 駅、ホテルなど)

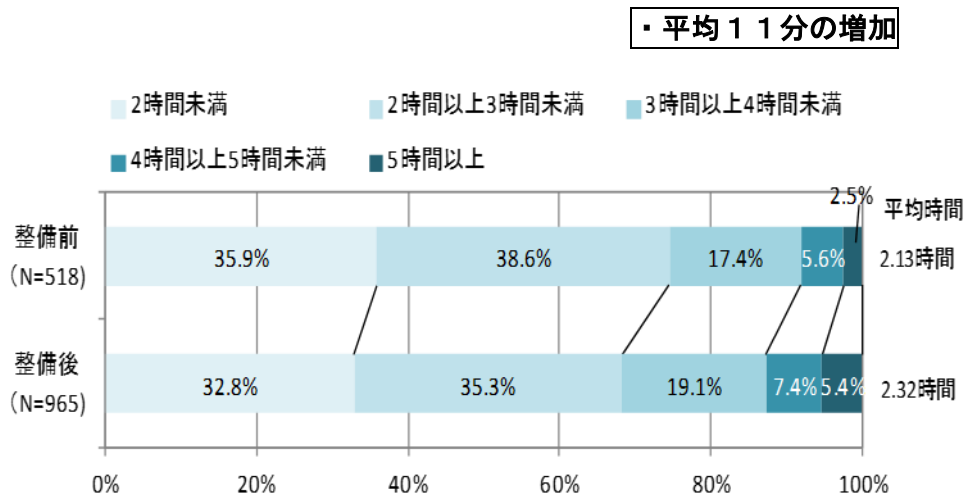
・マップは現在も需要が高く、1の鳥居から4の鳥居をくぐる動機づけとなっている。

8) 神門通り整備による効果

	整備前 (H21.10.29(木))	整備後 (H25.10.17(木))	倍率
勢溜	1,297	10,814	8.3
小学校入口	610	5,827	9.6
宇迦橋北詰	257	2,746	10.7
ご縁広場	224	1,431	6.4
合計	2,388	20,818	8.7

* 歩行者数は、10倍近くに。整備区外にも歩行者数増加の効果が波及。

[滞在時間の増加]



9) 平成の大遷宮の誘客効果と「おもてなし」遷宮効果による神門通りの賑わい

出雲市への入込者数等について

区分	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
出雲市への入込者数	8,692,786 人	10,435,869 人	15,758,052 人	13,099,631 人	12,495,489 人
出雲大社周辺への入込者数	2,479,000 人	3,483,000 人	8,040,000 人	6,647,000 人	6,076,000 人
宿泊者のべ人泊	469,974 人	500,118 人	588,078 人	575,133 人	602,875 人
観光案内所来訪者数	113,394 人	153,463 人	351,370 人	293,413 人	257,308 人
観光協会HPへのアクセス者数	484,441 人	803,929 人	2,147,423 人	1,219,817 人	1,181,346 人

【主な質疑応答〔概要〕】

問：交流人口1000万人の実現を目標にされた理由は。

答：交流人口の増加により、市内の工場とか、経済波及効果とかそういったことが、期待されたため。

問：出雲大社の遷宮行事は、現在の成果に影響があったと考えるか。

答：出雲大社の遷宮がなければ、ここまでの成果は得られていないだろうと考えます。遷宮がきっかけで、県、市、民間、地域が一体となって整備に取り組んだことが、非常に大きかった。

問：若い女性がターゲットにされているように思うがなぜか。

答：特に、若い女性をターゲットにしているわけではなく、出雲大社の御祭神が縁結びの神様ということで、そのような感じに見えるのではないかと。

後は、パワースポットブーム以降は客層が以前と変わったのは、感じている。

問：商店街活性化以前と以後で、出雲市の税収はどれくらい変わったか。

答：実際にどのくらい影響があったかという点、正確にはわかりませんが、遷宮直前の平成24年の市県民税が70億円で、平成26年には73億円、平成27年には、74億円ということで増えてきているのと、観光客数の増加、宿泊客数の増加等照らし合わせると、それなりの効果はあったと考える。

問：まちの再開発により、人口の増加はあったのか。

答：市全体としては、若干増えていますが大社町という地域だけ見ますと、500人程減っている。神門通り自体は、人も店も増えているがそこで暮らしている方というのが、少なくて店を借りてやられている方がほとんどで、昼間の人口は増えているが、実際住んでいる方は残念ながら減っているのが現状である。

問：民間と行政のすみ分けを誰がどのタイミングで行ったのか。

答：特にすみ分けの作業は、行っていないが、それぞれが連携をとりながら、それぞれができることをやっていった結果として、このような効果があったと感じている。

問：以前と何が変わることで、この成功が出来たのか。

答：一番大きいのは、やはり地域の力であると感じている。

問：シェアド・スペースにした効果は、ありましたか。

答：効果はあった。元々は2.5メートルの路肩であるが、並んで歩けなかった。今では歩いて楽しんでいただく幅もあり、車に関しても、石畳舗装としたことでスピードが落ち、安全に走行されるようになった。

問：神門通整備事業は「神話博 しまね」にあわすため、計画から工事完成まで4年間という短期間でおこなわれた様ですが、工事に関する地元の賛同をスムーズに得られたのか、またトラブルはなかったのか。

答：行政主導ではなく、住民参加で計画を進めてきたので、住民や地域の方々と一体となって計画作りや整備を行ってきたので、短期間ではありましたが比較的スムーズにいった。

【所 感】

出雲大社周辺のまちづくりとしては、市、県が一体となって整備を進めていたことは、元より、成功の最大の要因としては、住民主導で計画や整備が行われているのが一番の要因であり、目標や計画、整備等を住民主導で決定していることについては、見習うところが多かった。



[出雲大社、出雲大社神門通り]

I 現地視察

【1】宇迦橋の大鳥居

大正4年（1915年）に建てられた、高さ23mの大鳥居。出雲大社前の神門通りの開通を記念して建てられたとのこと。出雲大社にある4つの鳥居の入り口にある鳥居で「一の鳥居」と言われています。近くで見ると、圧倒されそうな大きさに、車で通り抜けるより、徒歩の方がより実感することができます。



鳥居の入り口から見た
(宇迦橋の大鳥居)



神門通りから見た、
(宇迦橋の大鳥居)

【2】出雲大社神門通り

平日の午前中にもかかわらず、たくさんの方が訪れている、出雲大社神門通り。
本殿までは上りになっています。大型車両のすれ違いの際、歩行空間に車両がはみ出す問題が確認されているため、歩行者にゆったり歩いてもらうために、観光バスに関しては、北進方向への一方通行を自主規制していただいているとのこと。



(鳥居まで上りになっている
神門通り)

【3】シェアド・スペース

実際見ると、車と歩行者が一体になっている様子。中央線もなく、地面はドライバーに視覚的に印象付けるため石畳になっており、自動車の速度低減を図っているとのこと。人と車とが譲り合う道としてまた、共存道路として整備されているのが、見てとれました。本殿までは、上りになっているが、下記写真のように、帰りは下りになっているので、神門通りの商店街や、大社の観光案内所などがあり、景観を見ながら、買い物や、食事をする事ができます。



(中央線がなく、歩行者と
車が共存している、風景)

【4】勢溜の大鳥居（二の鳥居）

近くの駐車場にバスを停めて、大鳥居まで歩いて5分ほど。駐車スペースも何百台停めれて、交通の便も良く、信号機やボラードなど地上施設は、出雲大社のトータルデザインとして調和を図り、横断歩道などは、やわらかな弓なり形状になっております。



(勢溜の大鳥居の入り口付近)



(信号機やボラード、弓上になっている、横断歩道)

【5】下り参道

普通は上り参道であり神社仏閣の参道で、下り参道はめったにないとのこと。出雲大社の歴史を感じることができます。



(出雲大社入り口からの
下り参道)

【6】出雲大社 神楽殿

神楽殿は、明治12年出雲大社教が組織化された当時、その教化のために大国主大神を本殿とは別におまつりしたことに由来します。

現在の神楽殿は昭和56年に造営されました。その大広間は270畳敷きの広さをほこり、神社建築にはめずらしく、正面破風の装飾にステンドグラスが使われています。

注連縄は長さ13.5メートル、重さ4.4トンの巨大なもので、出雲大社を象徴するかのような造りになっています。



(神楽殿入り口付近)

【所感】

2日目に、出雲大社と神門通りに現地視察にいったが、景観や街なみに細かな工夫がたくさんしており、「観光客へのおもてなし」を活動目的としたことが、感じられた。

その際に、歩行者と車の共存空間で参道が整備されていることについては、本市としても見習うところが多かった。

今後は、本市としても三輪の沿道を整備するための、さまざまな社会実験や住民アンケートまた推進体制を市単独ではなく、県や市民、関係団体、アドバイザー等に働きかけ進めていく必要があると考える。

